

厚生労働省が禁煙支援マニュアル第二版の増補改訂版

受動喫煙と加熱式たばこの記載充実

厚生労働省は5月31日、禁煙支援マニュアル(第二版)の増補改訂版を公表した。第二版策定時の平成25年から5年が経過したことを踏まえ、受動喫煙と加熱式たばこの記載を充実するとともに、最新の科学的知見や健診・保健指導の場での情報提供に役立つ文例集を追記している。

禁煙支援マニュアルは、禁煙希望者に対し喫煙と健康に関する健康教育を行うために必要な基礎知識や実施方法、留意事項を解説しており、健診・保健指導や禁煙外来で禁煙支援を行う保健医療の専門職や職場の衛生管理者、地域の保健事業担当者らに活用されている。初版は平成18年、第二版は25年に策定された。厚生労働省は第二版の策定から5年が経過し、その間の科学

的な進展や社会環境の変化を踏まえ、増補改訂を行った。増補改訂版は30年度版の標準的な健診・保健指導プログラムの整合性を図るとともに、

受動喫煙と加熱式たばこに関する記載を充実させ、健診・保健指導や禁煙外来でより効果的な禁煙支援を行えるようにしている。

■加熱式健康影響を追記

増補改訂版の構成は①本教材のねらいと特徴②知識編―健診や保健指導の場で短時間でできる禁煙支援③実践編―カウンセリング学習―短時間でできる禁煙の効果的な働きかけ―④資料編―禁煙支援に役立つ教材や資料―で、第二版から大きな変更はない。

受動喫煙の新たな科学的知見については、知識編の「受動喫煙に関する健康影響と情

報提供」で追記している。健診時の情報提供では、資料編の「喫煙・受動喫煙に関する質問票」で受動喫煙の曝露状況を把握し、受動喫煙の有無や喫煙状況にかかわらず、原則として健診当日に受診者全員に情報提供を行うこととしている。

具体的な声かけの内容は、実践編の「喫煙に関するフィードバック文例集」で示しており、非喫煙者・禁煙者には「家庭又は職場で受動喫煙を受けている場合は、それを改善するため、家庭や職場に相談してみましよう」、喫煙者には「家族をはじめ、周囲の人にたばこの煙を吸わせないように注意してください」などとしている。

加熱式たばこの健康影響については「科学的知見はまだ多くないが、現時点で得られている知見から、加熱式たばこ使用者に対して、紙巻たばこを吸わずに単独で使用している場合であっても、その状

態をゴールとするのではなく、最終的にその使用も中止するよう、情報提供や支援を行うことが重要である」としている。

また、文例集では紙巻たばこと加熱式たばこを併用している者へのアドバイス例を記載。加熱式たばこは紙巻たばこと比較して少量の有害物質の曝露でも、たばこが関係する病気のリスクが高まる可能性があることを伝え、禁煙に向けた動機を高めることを推奨している。患者要件を満たしていれば、加熱式たばこ単独、紙巻たばこの併用にかかわらず、健康保険で禁煙治療を受けることができるとしている。

世界禁煙デー記念イベント

「望まない受動喫煙を東京五輪までになくす」

厚生労働省主催の「世界禁煙デー記念イベント201